

<スクールアルバム>

今年度スタートの入学式 よろしくお祈りします♡



在校生代表の
証し



新入生代表挨拶



防災散歩で避難場所などを確認



スクールイスターでは紙芝居、スキットでお祝い



新入生歓迎全校遠足では、映画『キング・オブ・キングス』鑑賞、
カップヌードルミュージアムで楽しく過ごしました。



春のふれあいフェスティバルでは、ゲームやブースで活躍！



お願い・ご報告

- 新年度4月の行事は守られ、祝福されました。皆さまのお祈り、ご協力に感謝いたします。
- 今年度、カミラ マーティン先生が、小学生の英会話を担当します。よろしくお祈りします。
- 自転車通学者を対象に自転車安全指導・点検を実施いたしました。自転車走行の際は、交通ルールをきちんと守り、事故のないよう、安全運転をしてください。
- 防災費用として、年額500円を副教材費から徴収させていただきます。ヘルメット、防災備蓄品(乾パン・水等)等の購入のためです。ご協力をお願いいたします。
- 6月18日(木)は、スクール開校記念日で休校です。

今月のみことば(暗唱聖句)

「すべて疲れた人、重荷を負っている人は、わたしのもとに来なさい。わたしがあなたがたを休ませてあげます。」マタイ11:28

「Come to Me, all you who labor and are heavy laden, and I will give you rest.」
Matthew 11:28

祈禱課題

- 1、スクール関係者が主の愛と恵みに溢れて祝福されるように。
- 2、生徒一人ひとりが主体的に学んでいけるように。
- 3、徐々に開かれていく学校法人化への道を信仰をもって皆で進んでいけるように。



のあインターナショナルスクール スクール通信 5月号

2026.May1

VOI.224

〒247-0024 横浜市栄区野七里一丁目 37-10

TEL:045-891-9982 FAX:045-895-3761

「神様の訓練」

中学部担任 石川優実

4月18日、野七里グラウンドでフェスティバルが行われました。奉仕者としてフェスティバルに関わる生徒たちは、事前に「フェスティバルトレーニング」を受けます。フェスティバルにおいて大切にしていることを確認し、どんな心構えで臨むべきかを学ぶのです。

トレーニングは日本語に訳すと「訓練」です。フェスティバルトレーニングだけでなく、フェスティバルそのものが生徒たちにとっては「訓練」ではないかと思えます。たくさんのお客さんに笑顔で接し続けたり、暑い中で力仕事をしたりするのは、決して楽なことではありません。しかしその経験を通して生徒たちは訓練され、たくましく成長していきます。

スクールが提携している、韓国のヤダイナショナルクリスチャンスクール（以下ヤダICS）では、一風変わった「訓練」があります。それが「歩行訓練」です。1週間ほどの合宿の間、毎日ひたすら歩き続け、身体と精神を鍛練するという行事です。

私は昨年度、2名のスクール生と共にこの歩行訓練に参加しました。多い日では約35000歩、20kmを超える道のりを歩き、言うことを聞かない足を引きずりながらなんとか目的地までたどり着いたことをよく覚えています。目的地までの距離や時間はまったく知らされず、あとどのくらい歩けば到着するのかもわからないので、精神的にもかなりハードでした。しかし振り返ってみると、先の見えない中でも忍耐と希望をもって歩き続けるという歩行訓練は、まさしく神様に従って人生を歩むための訓練であったと感じます。引率という立場ではありましたが、生徒たちと同じ目線で貴重な経験をさせていただいたと感謝しています。

そして、今年度もヤダICSとの交流の機会が設けられています。5月下旬には、韓国から高校生たちが留学に来てくれます。そして6月下旬には、こちらから生徒たちを派遣し、歩行訓練に参加する予定です。初めての場所、初めての言語、初めて出会う人たちに囲まれて過ごすのはとても疲れることですが、成長するためにはとても良い訓練です。この国際交流を通して、大きく成長した生徒たちの姿を見るのが今から楽しみで仕方ありません。

神様は日常の出来事を通して、私たちに訓練し、成長させてくださいます。スクールの生徒たちを見ていると、日々さまざまな訓練を受けていることを感じます。少人数の学校ですから、気の合わない人とも一緒に過ごさなければなりません。人前に立つのが苦手でも、みんなの前で証しをする場があります。人間の常識では実現しそうにないことでも、あきらめずに祈る機会がたくさんあります。生徒たちはそのような経験を通して、忍耐すること、勇気を出すこと、神様に信頼することを訓練されていくのです。

すべての訓練は、そのときは喜ばしいものではなく、かえって苦しく思われるものですが、後になると、これによって鍛えられた人々に、義という平安の実を結ばせます。

へブル人への手紙 12章11節

今年度、神様は私たちにどのような訓練をしてくださるのでしょうか。振り返った時、生徒もスタッフも「神様の訓練を通して大きく成長した！」と思えるような一年になるよう祈ります。

5月のカレンダー

| 日 | 月 | 火 | 水 |
|----------------|----------------------|---------------------------------|--|
| 3日 憲法記念日 | 4日 みどりの日 | 5日 こどもの日 | 6日 憲法記念日(振替) 0先生誕生日 |
| 10日 恵愛さん誕生日 | 11日 | 12日 | 13日 合同別礼拝(1限) |
| 17日 | 18日 | 19日 中高等部授業参観(5限)・ 懇談会(6限) | 20日 学部別礼拝(1限) 尿検査① ヤダ短期留学生歓迎会(3、4限) |
| 24日 歩先生誕生日 | 25日 資金作りのための保護者作業 | 26日 | 27日 学部別礼拝(1限) ヤダ ICS オンライン交流会 |
| 31日 | | | |

- ・ 1日(金)は、4月19日(土)に行ったフェスティバルの代休になります。
- ・ 15日(金)に小学部、19日(火)に中高等部は、授業参観(13時35分～14時20分)／懇談会(14時30分～15時15分)を行います。詳細は各学部より、ご連絡します。保護者の皆様はご参加ください。
- ・ 5月18日(月)～6月5日(金)、韓国提携校のヤダ ICS より、5名の高校生(高3男子4名高2女子1名)が短期留学生として来校します。20日(水)に歓迎会(実行委員会主催)、27日(水)にオンライン交流会を行う予定です。
- ・ 20日(水)に尿検査①、6月4日(木)に尿検査②を実施します。朝9時までに忘れずに提出してください。(できるだけ20日(水)に提出しましょう。)
- ・ 25日(月)、資金作りのための保護者作業を10時30分～桂台教室にて行います。小学部の生徒達がクッキーを作るための生地作りもします。奮ってご参加ください。問い合わせは鈴木桜子まで。
- ・ 30日(土)午前、オープンスクール「スクール体験の日」及び授業参観日とします。オープンスクールは、一般の小中学校に通う方々に、本校を体験してもらおうと企画します。本校生徒の皆さんは、登校日とし、通常登校です。また、12時から、お父さんやお母さんに感謝する日として「ペアレンツデイ」を実施します。保護者の皆様は、授業参観と合わせ、出席をお願いします。下校は、13時30分です。なお、6月1日(月)は、代休で休校となります。
- ・ 5月連休明け、発育測定(身長・体重測定、視力検査)を行います。
- ・ 5月中に避難訓練を行います。

| 木 | 金 | 土 |
|-----|---|---|
| | 1日 (4/18 (土) の代休) | 2日 |
| 7日 | 8日 委員会活動 (6限) | 9日 K先生誕生日 |
| 14日 | 15日 小学部授業参観(5限)・懇談会(6限) クラブ活動(6限) | 16日 |
| 21日 | 22日 クラブ活動 (6限) | 23日 |
| 28日 | 29日 クラブ活動 (6限) | 30日 オープンスクール「スクール体験の日」・ 授業参観 (午前) ペアレンツデー (午後) |
| | | |

子育て *note*

「食事を共にすることの大切さ」

今月の初め、教会行事ではイースターがありました。この地上に降りて来られた最大の目的である、十字架と復活の業を目の前にして、弟子たちと一緒に過ごす最後の夕食の席で、主は、聖餐式を定められました。聖餐式には、共に食事することの大切さを強調する側面もあると思います。

ある時、唯一の家族を失って独りぼっちになってしまった少女をケアすることになりました。その後、彼女に関わってきた教会の姉妹たち5、6人と私たち夫婦で月1回のペースで、彼女を交えて食事会をすることにしました。最初はどのようにして、彼女の人生をサポートしてあげたら良いのかがわかりませんでした。その毎月1回の食事会を重ねていく中から、そのサポートしたいと思う人たちの間の親密度が増していった、最近彼女はとても元気になってきました。毎月1回の食事会は、彼女にとっての家族になっていったのです。彼女は、最近では様々な仕事に取り組むことができるようになって、働くことに自信をつけ始めました。

個食で食事をする子供たちが増えてきていると聞いています。食事を共にすることは、家族が一体感を形成していく上で、とても大切なことです。昔の軍隊では、同じ釜の飯を食べることが、どれほど戦場での友情と一体感を強めるかを表現していました。食事の場での、自分たちが外で見聞きしたことや心にあることの分かち合いする中、互いの体験や思いが家族としての心を形成していくのです。神さまご自身、私たちに語りかけて、ご自身との食卓の交わりに招いてくださっています。

"見よ、わたしは戸の外に立ってたたいている。だれでも、わたしの声を聞いて戸を開けるなら、わたしはその人のところに入って彼とともに食事をし、彼もわたしとともに食事をする。"

ヨハネの黙示録 3章 20節

是非、毎日食事を取る時には一緒に食事をして、その会話が楽しい会話になるように祈りつつ、家族の交わりを深めていこうではありませんか。

校長 月井博